

あかつきデイセンター開設の思い出

箕面市粟生間谷西七丁目 森 和則

在宅福祉が強調され始めた昭和五十年代後半のある日、「暁光会さんからあかつき特養の隣接地にデイサービスセンターを整備したいとの相談があった。府で補助するには地元自治体からの裏補助が前提となるので前向きに検討していただきたい」という趣旨の電話が大阪府の担当課からあった。

当時、「デイサービス」は府下的にもそれほど普及しているわけでもなく、市としても在宅福祉の要として通所サービスの必要性は強く感じながらも施設整備計画はなく、ましてや民間への補助金交付でショートステイ専用居室を含む通所型の福祉サービスが実現できるなどとは夢にも思っておらず、千載一遇のチャンスとしてすぐに飛びついた。

「デイサービス施設整備事業」という市の方針決定後は、あかつき特養施設長の阪部さん、看護師の木場田さん（共にシスター）他、スタッフの皆さんと何回も打ち合わせをし、大阪府や府医師会にも足を運び、施設整備にかかる協議を進めていった。

着工後も現地に足を運び、備品のリストアップや機種選定の選定、送迎車両の選定や購入手続き、竣工後の事業展

開等、あかつきスタッフと一緒に開設準備にあたった。

というのも当時のあかつき特養は、入所サービスとしての施設運営があるだけで、行政との接触は老人福祉法に基づく特養への入所・退所に関連する措置事務しかなく、デイセンター整備の話があるまでは、山間にあるシスターが多数おられる「慈悲深い」一老人ホームという受け止め方しか我々職員にはなかった。

ましてや通所サービスについては初めての挑戦で、行政補助の交付手続きや在宅福祉サービスの運営についてどれほど理解されているかとの心配もあり、行政の支援なしでは開設は厳しい、まさに「あかつきの施設整備」イコール「市の基盤整備」という思いで全力投球していた。

このような開設経過の中で忘れることができないのは、府の指導もあり、当初は隣接の池田市の要援護老人まで受け入れを行うこととなり、スタッフは多大な時間をかけて池田市域への送迎や当該老人にかかる福祉サービスの調整、家族との連絡等にあらざるを得なかったことである。

サービス基盤の異なる箕面・池田両市民への公平なサービス提供、法人のもつ博愛精神を保持しながら、困難な状況を全身で受け止め、新たな事業の立ち上げに真摯に取り組んでいただいた当時のスタッフの皆さんには今でも感謝の気持ちでいっぱいである。

小生もスタッフの負担を軽減し、事業の円滑化に少しでも役立ちたいとの思いで、市役所からデイ施設に日参し、池田市域への面接に同行したり、池田市担当課との調整等に関わり、周りから「あかつきの職員になったみたいね」と言われたこともいい思い出として残っている。

また、施設までの進入路拡幅整備も補助事業として可能性を追求したが「ため池」「水利組合」という大きな壁が立ちほだかり、あきらめざるを得なかったこともこの際、付け加えておきたい。

あかつきデイサービスセンターは箕面市の在宅福祉を支える通所サービスのはしりであり、これを契機に施設の社会化も急速に進展し、市との信頼・協力関係も一気に醸成され、今日の各種介護保険サービスに発展していったと認識している。

一時期、「基準該当事業所」として重度障害者のデイサービス受け入れにも協力していただいた事は、関係者以外にはあまり知られていない。

地域にこのように信頼され、安心できる高齢者施設があることは市民にとっても心強い限りであり、これからも当事者のみならず家族にとっても安心と安らぎを与えてくれる社会資源として発展していただくことを切望する次第である。